

大好きなお兄ちゃん

小 四

わたしには、一人のお兄ちゃんがい
ます。それも特別なお兄ちゃんです。
お兄ちゃんには、「発達しよう害」と
いう、特徴があります。だから、特別
しえん学校に通っています。そんなお
兄ちゃんにはよいところがたくさんあ
ります。お兄ちゃんはぜっ対にぼう力
をふるいません。悪い言葉も言いませ
ん。そしてとても面白いです。お兄ち
ゃんはいつも家族の人気者です。そん
なお兄ちゃんを私はとっでもうらやま
しいと思つて、とてもそんけいしてい
ます。

お兄ちゃんは何回か私の小学校に交
流に来たことがあります。一年生のと
き、お兄ちゃんがわたしの教室にやつ
てきました。ずっとわたしの名前をよ
んでいます。みんなは、
「だれ？ だれ？」
とざわめいています。そのときわたし
はとてもはずかしい気持ちになつてし
まいました。そのせいで、せっかく来
てくれたのに一言も話せなかつたので
す。
そして、二年生のとき、一年生のと
きと同じように交流に来たお兄ちゃん
が教室に来ました。私はとてもきんち
ようしました。でも一年生のときみた
いにお兄ちゃんを悲しませるのはダメ
だ、と思ひました。そしてみんなに、

「わたしのお兄ちゃんだよ。」
と言うことができました。そのときは
とてもスッキリしました。

今、お兄ちゃんはもう六年生です。
これでわたしの小学校に交流に来るのは
最後です。少しさびしい気持ちもあ
りますが、「お兄ちゃんが中学生にな
るよろこびの気持ち」と前向きに考え
ればいいなと思います。いつもやさし
くて面白いお兄ちゃんが大好きです。